

いきいきコンパス2030

正和行学グループ統合中期5か年経営計画（案） （2025-2030）

正和行学グループは、「いきいき社会」を創ります。

それは、こどもから大人まで、一人ひとりが尊重され、自分らしく生きられる社会です。

その実践の軸を「こども中心」に置き、保育・教育・福祉の現場から具体的な仕組みとして社会へ広げていきます。

いきいきコンパス2030は、その実現に向けた統合経営計画です。

理念を掲げるだけでなく、人材・財務・DX・ガバナンスを再構築し、社会の中に確かな形として実装していきます。

正和行学グループ

学校法人 正和学園

社会福祉法人 芳美会

株式会社 カンガールズ

合同会社 ひろがり保育プロジェクト

NPO法人 いきいきまちだ

関連法人

学校法人ソーシャルインパクト学園

株式会社 Okara Terrace

株式会社 ユナイテッドマジック

ビーネイチャースクール

株式会社 アクティブ・ラーニング・アカデミー

所属団体

社会福祉連携推進法人 新しい保育イニシアチブ

他

2026年3月31日

いとなみ保育プロジェクト 中期経営プラン （地域共生・地域共創を生成するフラッグシップ 持続可能な多機能型施設運営）

中期プラン突合		新規 / 既 存	項目		中期目標		中期プラン						
分野	No.		No.	重点項目	目標	目標の説明	5年計画					プラン内容	
							2025基盤づくり	2026試行と交流	2027広がりと定着	2028発展と共生	2029総括と次期展望		2030　こんな社会にしたい！
3. 社会連携、 社会貢献	1	継続		地域共生・地域共創	自然を媒介に、子どもと地域が日常的に出会い、共に活動することが“いとなみ”化する。	日常的にさまざまな人と出会う状況を継続的に園内外に創出する。子どもたちが自然を媒介にして地域と共に活動をしてそれぞれが当事者性をもって関わる状況がいとなみ化する。	- 子どもが自然に触れる機会を定期化 - 職員が地域資源を探し出すリサーチ開始（3園合同での竹プロジェクト始動）①おから活動の種類や場の増加・竹・コンボストの土づくり・コメのサイクル意識　②自然エネルギーの見える化・非常用電源の活用開始・安全管理委員会職員が誰でも使用できるようになる　③AED/災害時協力井戸のある場所表示・独自の防災拠点になる　④地域の生態系（カブトムシなどの）維持と連携・飼育動物の介在教育	交流を仕組みに組み込む - 園ごとに「地域の人との出会いプログラム」を年間計画に位置づけ - 園庭や空きスペースを地域と共有（週末開放・自然遊びイベント） - 子どもが主体で関われる「小さな役割」づくり（花の水やり、地域の掃除・地域掲示板づくり） 竹プロジェクト：1年を通した竹の活用の種類が増加。メンマづくりを学生も一緒に実施。 田んぼづくり（小学生や地域の方々が参加できる活動を1年通して、3園合同にて開始。	- 地域の自然（川・里山・田、畑）をフィールドにした探究活動 - 子ども・保護者・地域住民が一緒に取り組む「季節のいとなみ田んぼ活動」を定期開催していることが地域でも周知される。 - 他園や団体と交流し「多様な大人と出会う機会」を増やす	・高齢者・学生・地域団体との継続的プロジェクトを運営 ・自然を媒介にした「地域まるごと学び場」構想を試行 ・子どもが自分の意見ややりたいことを活動に反映する仕組みの導入	これまでの活動を総括し、持続可能な運営体制を確立。地域ボランティアや保護者有志共に、自主的な運営体制が整う。園主体の取り組みから地域主体へと発展していく。行政・関係機関との連携協定し、安定した支援と役割分担のもとで事業を継続できる体制を整える。年度末には最終評価を実施し、成果指標の達成状況を測定するとともに、次期計画（2031年度以降）への課題と展望を整理。	地域住民、誰もが子育てに関わり、支え合う社会にする。自然を媒介にして、子どもを真ん中に据えた地域共生コミュニティの中核となり、「保育＋子育て支援＋地域の居場所」を一体化した新しい保育園の役割モデルを構築し、保育所・子ども園の新しい価値を創る。	園関係者のみで、企画等していたことが、地域共生コミュニティづくりの中核となり、地域の関係人口を増やし、地域の方々とよりよい場づくりをしていく。また、その地域環境の中で、子どもたちが育っていく体制をつくる。
					地域共創：地域と共に自然をテーマに交流の場を創っていく	地域住民、地元商店街・自治会と共に地域を創る・各学校、教育機関関係者と共に地域を創る	- 子どもが自然に触れる機会を定期的にもつ（竹プロジェクト・園庭・近隣の公園・里山・畑等） 地域の専門家との協働による活動の充実 - 園庭や空きスペースを地域と共有（冒険遊び場・週末開放・自然遊びイベント） - 持続可能な仕組み（助成金）に応募	- 園庭や空きスペースを地域と共有（冒険遊び場・週末開放・自然遊びイベント） - 自治会と連携し、防災や地域安全の視点も取り入れる - 持続可能な仕組み（助成金）に応募	- 里山・水辺などの整備・活用プロジェクトを展開 - 学校・こども園と連携した「自然体験学習」の拡充 - 持続可能な仕組み（助成金）に応募	・持続可能な仕組み（助成金）に応募 ・地域との交流、モデル発表	・成果の評価（地域満足度・参加人数・自然環境指標） ・成果報告会・冊子や動画による記録・発信 ・次の5年間に向けた課題整理とビジョン共有	地域と持続可能な園を創る！　持続可能なキーステーション　「多世代交流の開かれた拠点化」　すべての人が主役になれる社会	地元商店街・自治会などにより密につながる・共に創り出す事業実施（3園/つるぼう/町田山崎団地冒険遊び場参加）「やまぼう」浸透する。セントラル商店街とつながる。町内会に会場を貸しだしの関係性を確立する。
							- 職員が地域資源を探し出す、リサーチ開始 地域合同会議に継続的に参加し、どのようなニーズがあるかをさぐる。主体的に動けるとときには動く。 ・子どもが主体で関われる地域での「小さな役割」づくり（花の水やり、地域掲示板づくり）	・授業参画の回数・参加学生数を増加 ・園内環境（畑・里山・動植物）を活用した活動の展開 ・学生が主体的に企画を考え、子どもと実践 ・地域住民も参加できるオープンプログラム実践	・子どもが主体で関われる地域での「小さな役割」づくり（花の水やり、地域掲示板づくり）	・学校との協働を研究や地域貢献活動に発展 ・学生の学びを商店街活動や地域イベントに応用 ・子どもたちが地域愛着を深める機会を創出	・学生参画の成果を評価（子ども・学生・教職員・地域住民の声を収集） ・成果の発表・記録（報告会、冊子、映像など） ・次の5年間に向けた教育モデル・研究連携・地域貢献の方針検討 ・持続可能な仕組みづくり	園だけで地域を考えるのではなく、学生も園をフィールドとして使用できるのがいとなみ化される。園も、学校施設等を利用できる関係性をもつ。共に、活動を企画する。学生も主体的に企画を考え、子どもと実践する機会を多く持つ。	・それぞれの園が、深くかかわる地域の高校や大学をもつ。実習以外で、子どもと学生が交わる機会を多く持つ。高校・大学の授業参画。学生が、授業にて園内環境の活用し、子どもたちと交流するし学生が参画することが当たり前となる。

7. 組織 運営体制				持 続 可 能 な 多 機 能 型 施 設 運 営	子育てジャーニーを基にした多機能化	保護者の方々が園との関係性をもつ活動参加を様々な選択肢から選べるような機能を付加する。 切れ目のない「子育てジャーニー設計」。	・"非在園児も含め、多様な通い方ができ、仲間ができるコミュニティの場 ・就労にかかわらない『子育て支援』を実行 ・保護者参加型プログラムを日常運営に組み込む ・「子育てジャーニー」の公表や活用。	・週1回・短時間利用など柔軟なコースを試行 ・定期利用児（週1～5日）や学童連携し、未就園児から小学生まで継続的に支援 ・保護者のニーズ調査をして、プログラムを改善	・地域資源（NPO、大学、商店街等）と連携した活動を展開 ・高齢者・学生ボランティアの受け入れ	・学童や小学生支援を含む「継続的な子育て支援モデル」を確立。 ・保護者の交流や学びの場を設け、子育てを地域全体で支える仕組みを強化。 ・地域資源との本格連携	・利用者・保護者・地域住民の評価収集と利用実態や改善に反映。 ・学び・交流が循環するハブとなり、機能を明確化。 ・「まちのプラットフォーム」として定着。	・未就園児から小学生、保護者、高齢者までを含む、園が「まちのプラットフォーム」になる。	ご家庭の希望に柔軟に応えられる対応体制を整える。DX化をすすめ、来園しなくても、申請できる仕組みづくり。
	1	新規			地域に暮らすすべての人を対象とした包摂的な拠点	子どもや保護者だけにとどまらず、高齢者、障がいのある方、子育て世代、若者など、地域に暮らすすべての人を対象とした包摂的な拠点となる。 日常的な交流から災害時、緊急時の相互支援も見据えた、持続可能で安心できる地域づくりに寄与する。	独自の誰でも通園制度を考え実行する ※花の木は未就園児預かり推進事業開始(8月開始) ※町田自然幼稚園は2026年度4月より満3歳児クラスをスタートさせる ・園庭開放や一時預かりの拡充 ・地域子育て支援事業の充実（親子ひろば、相談日） ・在園児と非在園児が自然に混ざる交流の回数の増加	独自の誰でも通園制度を実行する ・保護者のニーズ調査を実施し、多様な利用モデルを整理 ・多様な働き方をしている保護者への支援を展開 ・地域のNPOや企業と連携し、特色ある活動を提供	独自の誰でも通園制度を実行する ・一時預かりと学童保育を連携し、ライフスタイルに合わせた柔軟運営	独自の誰でも通園制度を考え実行する ・保育＋学童＋地域活動をシームレスに提供する多機能モデル化 ・高齢者や大学生ボランティアとの協働プログラム開始 ・家庭ごとの通い方に合わせた「パーソナライズ型サポート」それぞれの園で「あなたの保育コンシェルジュ」をつくる	独自の誰でも通園制度を実行する ・在園児・非在園児を分けない「オープンな子育て拠点」として確立 ・柔軟な利用モデルを制度化 ・地域住民・行政と協働し、全国に発信するモデル園へ		・英語版入園願書 ・AI活用 ・保育/発達相談ソーシャルワーク（相談支援） ・子どもの権利の発信/アドボカシー ・コミュニティスペースの開催 ・こども版ケアマネ・コンシェルジュ（必要とされる家庭へのアプローチ） 独自の誰でも通園制度を考え実行する ※花の木は未就園児預かり推進事業開始(8月開始)

つながり保育プロジェクト 中期経営プラン（まちの中にインクルージョンが当たり前の子育て環境を構築する）

中期プラン突合		新規 / 既 存	項目	中期目標		中期プラン						
分野	No.		重点項目	目標	目標の説明	5年計画					プラン内容	
						2025基盤づくり	2026試行と交流	2027広がりと定着	2028発展と共生	2029総括と次期展望		2030こんな社会に
3. 社会連携 社会貢献	1	継続	まちと共鳴し合う「コミュニティのいちぶになる」	子育て応援社会の実現	妊娠期から就学後まで切れ目のない「子育てジャーニー」を整備し、家族と地域をつなぐ拠点をつくる。	プレママパパ→一時保育→入園→進級の流れを確実に推進。地域の拠り所として、小尾s建て応援窓口	こども園進級オープンデーを定例化こども園と協力体制強化。親子イベントや土曜秋施設開放を継続し、利用者の声を集めて改善する。	地域親子や多文化家庭も参加できる常設型コミュニティとして定例化。	こども園進級オープンデーを発展させ、地域の育ちの循環をさらに見える化する。	つながり保育プロジェクトのブランドを、地域・自治体へ共有発信しつつ役割となる	「子育てはまちの営み」という価値観が当たり前になり、家族が孤立せず支え合うまちになる。	・土曜空き施設利用 親子ふれあいコミュニティ（プレママパパ園児 地域親子） おもちゃひろば月1回 およこヨガ開催ゆったりラウンジ利用推進(火)(水)(金) ・つながりからこども園への進級推進のための、オープンデー体験の充実 ・日常的なニューロダイバーシティ価値の実現 子育てのしづらさを感じているご家庭へみんぐるくらぶ（児発支援）と 接続 ・他県からの流入子育て世帯やの見学や一時保育利用推進
			まちに貢献する	「まちぐるみの学び」を基盤に、こどもを軸としたつながりを広げ、持続可能な社会環境の創造を目指す。	地域社会（商店街、行政、多世代住民）と連携し、地域行事への参加やまちの美化活動への貢献を通じて、こどもを中心に広がる地域社会の新たな可能性を探り、実現していく。	フェスタなど地域行事にボランティアをつながり卒園児小中高大生で保育士体験参加者や単発アルバイトに呼びかけ。	こども実行委員会を立ち上げ、フェスタ企画運営。	商店会や住民と連携し、学齢児の参画を増やす。	防災訓練や危機対応に地域と共同で取り組む。	地域貢献活動を体系化し、地域の担い手育成を次期計画に反映。	こどもが地域の一員として参画することが当たり前になり、まちが共に育つ。	・こども達と育てたお花を活用した押し花カードやお花の苗を近隣へ配る ・春秋の花壇コンクールに向け、苗植え替え水やりなどを、環境整備委員会を中心に地域の方にも協力者を募る。 ・地域の行事や商店会の役員など率先して企画運営に協力する。フェスタや祭りで小中高大生によるこどもの実行委員会を設定 ・町田駅周辺の変化するまちに緊急時の対応にも即対応できる体制と助け合いのつながりづくり ・危機管理マニュアルを盛り込んだ訓練実施 地域を巻き込んだ訓練実施 保護者を交えた申し合わせ訓練や配信
			（居場所をケアする。所属感） Belongings	こどもが安心して「自分の居場所がある」と感じられる所属感（Belonging）を育む取り組みを通して、ソーシャルワーカーとしての役割を担う。	乳幼児とのつながりを起点に、小学生から大学生まで（特別支援校、不登校児、通信制高校生を含む）幅広い世代との交流を促進する。それにより、こどもの社会的幸福感を向上させるとともに、次世代育成支援の取り組みとして定着を図る。	卒園児やきょうだい児地域の小中高大生の保育士体験プログラムを定期化。	小中高大生の保育士体験プログラムを定期化。	特別支援校・通信制高校・不登校児も参加できる枠を拡充。	地域行事の実行委員会に多世代の若者が関わる仕組みを整備推進	地域と連携したの仕組みを確立し、次世代へ引き継ぐ体制をつくる。	誰一人取り残されず、地域で育ち合い貢献し合う文化が根づく	・小中高大生の保育士体験 地域行事への実行委員として活躍の場を ・特別支援高・通信制の高校生・不登校の小中学生支援の受け入れ ・地域の行事フェスタや祭りで小中高大生によるこどもの実行委員会を設定
7. 組織 運営体制	1	新規	変化を受け入れ、他社を尊重する	こども発信を受け止め広げる保育者の対応力を高め、社会的ウェルビーイングの実現を目指す	0・1・2歳児の居場所をケアすることは、ウェルビーイングの向上につながる。そのためには、一人ひとりに寄り添うとともに、保育者同士が子どもの姿を分かち合う機会を持ち、所属感を大切にしたり関わりへとつなげていくことが必要である。	ドキュメンテーション・ポートフォリオを通じ深め合い、事例共有の場と外部への発信や事例論文を提出	未来保育の変革推進プロジェクトの中心拠点としてイメージの変革 みんぐるくらぶを町田地域に設置	多文化・障がい児家庭も安心できる環境整備を実践。戸みんぐるくらぶの連携強化	つながりブランドの見直し。 保育者育成の学び合い研修プログラムを拡張。	育成プログラムを総括し、次世代リーダー育成計画を策定。	自律的に学び続ける保育者チームが育ち、変化に強い組織文化が定着する。 近隣の保育園も巻き込んで保育の語り合いができるようになる。	・運営の厳しい近隣保育園に対し、つながり保育プロジェクトとして新たな園づくりに取り組み、つながりブランドの構築 ステーション拠点の見直しも柔軟に対応する。 ・012歳児のこどもの探究心を組み取りる保育者の対応力向上に努めることが、こども一人ひとりの所属感を大切にすることと捉える。 ・対応力向上のために、保育カンファレンスの継続的な実施と、こどもの学びの事例を発信する ・多言語多文化の外国籍のご家庭とのつながりを、大切に食支援も含めた保育園での具体的な工夫推進 ・障がい児も保護者も安心できる、かかわりあい。日常的なニューロダイバーシティ価値の実現

施設名及び部門名		施設及び部門の目的や存在意義		理事長承認印
ひろがり保育プロジェクト		多様な他者を巻き込む、究極の地域共創		
目的や存在意義の説明				
私たちの学校法人は、保育事業において先駆的な取り組みを進め、「こどもを社会の中心に据える視点」や、「妊娠期・乳児期から小学校就学まで切れ目のない持続的な育ちの支援」、「プッシュ型子育て支援事業」を実践しています。インクルーシブと多様性の尊重を基盤に、地域とともに子育てを支える存在として、保育・教育の質を高め、未来を創る拠点となることを目指します。地域にとってなくてはならない存在となるため、私たちは多様な他者を巻き込み、究極の地域共創を実現します。				

中期プラン突合		新規 / 既存	実施項目		目標		中期計画プラン						進捗管理		担当 責任者	主要パフォーマンス(KPI)				財源/予算案			
分野	No.		No.	重点項目	目標	目標の説明	年度別活動						プラン内容	%		説明	指標名	指標説明	目標値	実績	項目名	概算額	執行月
							2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年											

● 重点項目(1) 地域と共生し、人とまちを結ぶ保育園へ

			新規	1	インクルーシブ共生社会を前提に、保育園が人やまちをつなげる	地域共創グループ4園が、取り組みの進捗状況及び情報共有を確実に進め、グループ全体で目標達成に向けて協働する。	この目標を達成するために、地域共創チーム4園がオンライン会議や対面協議を通じて進捗を確認・管理し、各園の取り組みがグループ全体の方向性と一致するよう調整してグループ全体の取り組みとする。さらに、渋谷区・江東区・埼玉県さいたま市・三郷市/吉川市という異なる地域性を活かしながら、重点項目2に沿った共通テーマでイベントを開催し、重点項目との整合性を検証して目標達成に向けて協働する。これにより、地域コミュニティの多様性を尊重し、持続可能なつながりを築く。	地域人材・保護者との交流を通して関係人口をふやす。グループ全体として、各四半期10回以上の交流機会、年間で50回以上の交流機会数を目標とする。	グループ各施設が共通テーマによるイベントを各四半期1回以上開催し、団体・個人との連携数の目標をグループ全体で50以上として各施設共通の「地域連携フォーマット」に記録・蓄積する。また共通テーマイベント参加者対象アンケート（共通フォーマット）を実施して、高評価が年間80%以上になるように、各施設の実情に合わせて4半期毎の目標を設定して取り組む。	グループ各施設が共通テーマによるイベントを各四半期1回以上開催し、団体・個人との連携数の目標をグループ全体で50以上として各施設共通の「地域連携フォーマット」に記録・蓄積する。また共通テーマイベント参加者対象アンケート（共通フォーマット）を実施して、高評価が年間80%以上になるように、各施設の実情に合わせて4半期毎の目標を設定して取り組む。	グループ各施設が共通テーマによるイベントを各四半期1回以上開催し、団体・個人との連携数の目標をグループ全体で50以上として各施設共通の「地域連携フォーマット」に記録・蓄積する。また共通テーマイベント参加者対象アンケート（共通フォーマット）を実施して、高評価が年間80%以上になるように、各施設の実情に合わせて4半期毎の目標を設定して取り組む。	グループ各施設が共通テーマによるイベントを各四半期1回以上開催し、団体・個人との連携数の目標をグループ全体で50以上として各施設共通の「地域連携フォーマット」に記録・蓄積する。また共通テーマイベント参加者対象アンケート（共通フォーマット）を実施して、高評価が年間80%以上になるように、各施設の実情に合わせて4半期毎の目標を設定して取り組む。	グループ各施設が共通テーマによるイベントを各四半期1回以上開催し、団体・個人との連携数の目標をグループ全体で50以上として各施設共通の「地域連携フォーマット」に記録・蓄積する。また共通テーマイベント参加者対象アンケート（共通フォーマット）を実施して、高評価が年間80%以上になるように、各施設の実情に合わせて4半期毎の目標を設定して取り組む。	年間を通じて、施設が地域の人々をつなぐハブとして機能するための基盤整備を行う。グループ4園合同で管理職以上のオンラインキックオフ会議を開催し、定例のオンライン（対面）の会議を開催して進捗状況と情報共有を行い、施設間のコミュニケーションを強化する。渋谷区・江東区・埼玉県さいたま市・三郷市/吉川市の地域性を活かした共通テーマによるイベントを各期1回開催し、定例会議においてイベントの振り返りと重点項目との整合性を検証する。第4四半期では、年間総括会議を開催し、当該年度地域共創グループ事業報告作成に向けて協議するとともに、次年度の計画を策定する。各園の活動は、月例の進捗管理会議で共有し、グループ全体の方向性がぶれないよう調整する。			法人事務各施設管理職	1. 連携合計数 2. 高評価％	1. グループ各施設共通の「地域連携フォーマット」を作成して導入する。4施設合計で連携数50以上を年間目標とする。2. グループ共通テーマによるイベント参加者対象アンケートを実施してグループ全体高評価80%以上を年間目標とする。1.2.ともにグループ月例会議で進捗を管理し、地域性を活かしながらも重点項目の方向性のぶれを防ぐ。	グループ全体各年度 1. 連携数50以上 2. イベントアンケート結果高評価80%以上							
--	--	--	----	---	-------------------------------	--	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	------------	-------------------------	---	---	--	--	--	--	--	--	--

● 重点項目(2) 地域課題に応え、行動を起こす拠点へ

			新規	2	地域づくりの拠点として、ソーシャルアクションを起こす	地域共創グループ4園が、取り組みの進捗状況及び情報共有を確実に進め、グループ全体で目標達成に向けて協働する。	渋谷区・江東区・埼玉県という異なる地域性を活かしながら、重点項目1で提示した共通テーマ活動を企画し実行する。進捗状況は月1回のオンライン管理職会議で共有し、重点項目との整合性を検証する。さらに、各期理事会で報告を通じて、活動の透明性と継続性を確保します。これにより、グループ4園が協働を進めながら地域づくりのハブとして機能し、社会的責任を果たす基盤を整える。	地域の町内会など各種団体が開催するイベント企画の運営補助などの役割を果たし、地域にとって必要な施設として機能する。各施設ごとに地域の実情に合わせて四半期目標を定め、グループ全体の年間目標を30回以上とする。	重点項目(1)で実施する共通テーマの活動を各4半期1回以上実施して、参加した個人及び団体へのアンケートで次回も継続したいという回答の割合を、グループ全体で年間80%以上になるように、各施設の実情に合わせて4半期ごとの目標を設定して取り組む。	重点項目1.で実施する共通テーマの活動を各4半期1回以上実施して、参加した個人及び団体へのアンケートで次回も継続したいという回答の割合を、グループ全体で年間80%以上になるように、各施設の実情に合わせて4半期ごとの目標を設定して取り組む。	重点項目1.で実施する共通テーマの活動を各4半期1回以上実施して、参加した個人及び団体へのアンケートで次回も継続したいという回答の割合を、グループ全体で年間80%以上になるように、各施設の実情に合わせて4半期ごとの目標を設定して取り組む。	重点項目1.で実施する共通テーマの活動を各4半期1回以上実施して、参加した個人及び団体へのアンケートで次回も継続したいという回答の割合を、グループ全体で年間80%以上になるように、各施設の実情に合わせて4半期ごとの目標を設定して取り組む。	重点項目1.で実施する共通テーマの活動を各4半期1回以上実施して、参加した個人及び団体へのアンケートで次回も継続したいという回答の割合を、グループ全体で年間80%以上になるように、各施設の実情に合わせて4半期ごとの目標を設定して取り組む。	年間を通じて重点項目の進捗管理をグループ全体で行い共有する。第1四半期はキックオフ会議を開催して重点項目を共有し、地域課題の調査結果に基づく活動案を協議する。さらに管理職以上の進捗管理会議を各月実施する。また、地域性を活かした各施設の活動を各四半期1回以上実施する。第4四半期は、当該年度地域共創グループ事業報告作成に向けて協議するとともに、次年度の計画を策定する。各園の活動は、月例の進捗管理会議で共有し、地域に向けた取り組みを月例管理職会議で管理し、方向性のぶれを防ぐ。			各施設管理職	協働の継続％	「地域協働の持続性」を指標として、参加個人および協働団体のうち「次回も連携したい」と回答する割合を年間80%以上と設定する。これにより、グループ各施設が地域課題解決の拠点として機能し、持続的なパートナーシップを形成する。評価は活動後アンケートと協働した個人および団体へのフィードバック調査で行う。	グループ全体各年度 次年度継続80%以上						
--	--	--	----	---	----------------------------	--	---	---	--	---	---	---	---	---	--	--	--------	--------	--	-----------------------------	--	--	--	--	--	--

● 重点項目(3) 社会と連携し、こどもの力を社会へ

			新規	3	社会と連携して、こどもたちが活躍、貢献する	地域共創グループ4園が、取り組みの進捗状況及び情報共有を確実に進め、グループ全体で目標達成に向けて協働する。	子どもたちが社会と関わり、主体的に活動する機会を確保し、渋谷区・江東区・埼玉県という地域性を活かしながら重点項目の趣旨に沿って、こどもたちが地域貢献プロジェクトなどに取り組み、活躍、貢献出来るようにグループ全体で取り組む。また、地域性を活かしながらこどもたちの活動を支援し、重点項目との整合性を各月オンライン（対面）会議を実施して検証する。また各施設間の保育者の交流（交換留学など）を促進して、子どもたちが社会の一員として自覚を持ち、活躍できる環境を整える。	中期計画初年度の活動として、探究活動を軸とした魅力ある保育活動を企画・実践し、SNSなど利用してこどもたちの活動を発信することで各施設の認知度を高め、発信素材としてドキュメンテーションを作成する。各施設の活動計画に合わせて4半期ごとの目標を定め、施設掲示などへのドキュメンテーション作成数の年間目標を250掲載以上とする。	毎月開催されるグループ管理職会議で各地域の実情を共有して共通テーマによる活動をグループ全体で年間6回以上とする。連携した地域住民・各種団体へのアンケートを実施して、「こどもたちの活動が地域に良い影響を与えた」と回答した割合が年間平均75%以上になるように各施設が取り組む。	毎月開催されるグループ管理職会議で各地域の実情を共有して共通テーマによる活動をグループ全体で年間6回以上とする。連携した地域住民・各種団体へのアンケートを実施して、こどもたちの活動が地域に良い影響を与えた鳥栖割合が年間平均75%以上になるように各施設が取り組む。	毎月開催されるグループ管理職会議で各地域の実情を共有して共通テーマによる活動をグループ全体で年間6回以上とする。連携した地域住民・各種団体へのアンケートを実施して、こどもたちの活動が地域に良い影響を与えた鳥栖割合が年間平均75%以上になるように各施設が取り組む。	毎月開催されるグループ管理職会議で各地域の実情を共有して共通テーマによる活動をグループ全体で年間6回以上とする。連携した地域住民・各種団体へのアンケートを実施して、こどもたちの活動が地域に良い影響を与えた鳥栖割合が年間平均75%以上になるように各施設が取り組む。	毎月開催されるグループ管理職会議で各地域の実情を共有して共通テーマによる活動をグループ全体で年間6回以上とする。連携した地域住民・各種団体へのアンケートを実施して、こどもたちの活動が地域に良い影響を与えた鳥栖割合が年間平均75%以上になるように各施設が取り組む。	毎月開催されるグループ管理職会議で各地域の実情を共有して共通テーマによる活動をグループ全体で年間6回以上とする。連携した地域住民・各種団体へのアンケートを実施して、こどもたちの活動が地域に良い影響を与えた鳥栖割合が年間平均75%以上になるように各施設が取り組む。	年間を通じて重点項目の進捗管理をグループ全体で行い共有する。また保育職員の交流を通して相互理解を深める。第1四半期はキックオフ会議を開催して重点項目を共有し、重点項目の主旨に沿ったこどもたちの活動案について協議する。さらに管理職以上の進捗管理会議を各月実施する。また、地域性を活かした各施設のこどもたちの活動を各四半期1回以上実施する。第4四半期は、当該年度地域共創グループ事業報告作成に向けて協議するとともに、次年度の計画を策定する。各園の活動は、月例の進捗管理会議で共有し、こどもたちが地域に向けて活躍、貢献する取り組みの方向性のぶれを防ぐ。			各施設管理職 保育職員	1.こどもの地域社会貢献数 2. 地域からの評価％	こどもが社会の一員として役割を果たし、自己肯定感を高めることを目的とする。 1.こどもたちが主体となる地域貢献活動を年間6回以上 2.「地域からの評価」で、協働団体や地域住民が「子どもの活動が地域に良い影響を与えた」と回答する割合を年間75%以上 これにより、子ども主体の活動が地域に価値を生み、社会との連携が強化される。評価は活動後アンケートと地域評価調査で実施する。	グループ全体各年度 1. 6回以上 2. 活動後アンケート高評価年間平均75%以上						
--	--	--	----	---	-----------------------	--	---	---	--	---	---	---	---	---	---	--	--	----------------	----------------------------------	--	---	--	--	--	--	--	--

施設名及び部門名		施設及び部門の目的＝存在意義		理事長承認印
ひろがり保育プロジェクト 共生づくりチーム		誰一人取り残さない、究極の多文化共生保育を実現する		
目的や存在意義の説明				
「すべての子どもにひらかれた、一人ひとりのちがいを前提に、みんなで育ち合う保育を実現する」				
国籍やことば、発達の特性、家庭背景などのちがいを、特別な例外としてではなく、最初からそこにあるものとして受け止める保育をめざします。子どもを分けたり選別したりせず、ちがいがあまま共に過ごし、関わり合いながら育つ経験を大切にします。一人ひとりが守られ、役割をもち、支え合う中で、すべての子どもが安心して学び、成長できる環境をつくり、その積み重ねを共に生きる社会の土台へとひろげていきます。				

中期プラン統合		新規 / 既存	実施項目		目標		2026年度 事業プラン				進捗管理		担当 責任者	主要パフォーマンス(KPI)				財源/予算案			
分野	No.		No.	重点項目	目標	目標の説明	四半期別活動				プラン内容	%		説明	指標名	指標説明	目標値	実績	項目名	概算額	執行 月
							4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月											

① ちがいのある子ども・家庭を、そのまま受け入れる保育をつくる

																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	</
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

② 保育園を、地域の中にひらき、人と人をつなぐ

																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															</
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

③ 多様な人が関わり合う「共生のモデル」を地域に広げる

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

施設名及び部		施設及び部門の目的や存在意義	
正和行学グループ 法人事務局／特命事業部		Well-being社会(=いきいき社会)の実現に挑む原動力となる	
目的や存在意義の説明			
法人事務局は、保育・教育・福祉の現場が本来の力を発揮し、一人ひとりが「いきいき」と生きるWell-being社会を実現するための原動力である。制度や仕組みを整え、仕掛けを創出することで情報や人をつなぎ、挑戦が生まれ続ける環境をつくり、現場の想いと実践が途切れることなく循環するエンジンであり、推進力となっている。目立たなくても、答えを急がなくても、学園の未来に向けて問いを持ち続け、挑戦を可能にする力であり続けること。それが、法人事務局の存在意義である。			

いきいきコンパス 2025-30		新規 / 既存	実施項目		目標		中期プラン					進捗管理		担当 部門	主要パフォーマンス(KPI)				財源/予算案				備考	
目次名	P		No.	重点項目	目標	目標の説明	5か年計画					2030の姿	%		説明	指標名	指標説明	目標値	実績	財源 または 削減額	項目名	概算額		執行 月
							2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度													

● 法人事務局／B. 事業体を、正和学園だけでなく、「グループ全体として捉え直すための徹底した再構築」

			1	事務局体制の再構成	保育・教育のグループ体制の事務局として一本化する	法人別組織ではなくグループ組織としての体制をつくる	▶事務局の一室化	▶規程・ルール等の統合 ▶人事等システムの導入	▶規程・ルール等の更新	▶規程・ルール等の更新	▶規程・ルール等の更新	▶規程・ルール等の更新	法人個々ではなく、グループ内の事務業務が総じて統合し、見通せる姿になる			事業推進	規程、マニュアル等の改正・新設等の項目数及び達成率 ※1	グループ統一にて新たなマニュアル化、既存改訂等、その項目数や更新等の達成度を指標とする ※1	項目数 16 達成数 100% ※1					
			2	グループとしての運営の高度化	事務業務の脱属人化（事務局のDX化）	グループとしての事務体制とともに業務のジョブ化を進める。BPO導入によって属人化を脱する	▶組織の改編	▶組織・体制の更新 ▶業務の最適化	▶組織・体制の更新 ▶ジョブローテーション	▶組織・体制の更新 ▶各業務の理解深化	▶組織・体制の更新 ▶定着	自らの役割以外の業務内容を深く理解するとともに、誰でも業務が担当できる状況になる			事業推進	BPOの進捗達成度 ※2	BPO化するもの、しないものを踏まえて整理の上、BPO化としての進捗達成率を指標とする ※2							
			3		ひろがり保育PJの新施設を含めた収支改善	新施設を含めたひろがり保育PJの収支を改善する	▶各種戦略立案 ▷事業計画の推進 ▶適切な職員配置等 ▷運営費の精査	▷事業計画の推進	▷事業計画の推進・更新	▷定着へ（調整）	▷定着	独立採算として、各施設が黒字化している			事業推進	単月黒字化 ※1	つなよよ、PAL2園についての単月黒字化を達成するひろがり保育園の園児数＝定員数	3施設の単月黒字化 ※1 ひろがり保育園2園の園児数					*1 ひろがり保育プロジェクトの計画と運動	
			4		予算配分を軸とした持続可能な施設運営	財務の統合化を進めるため管理会計の確立を目指し、予算主義を実現する。収入予算としての補助金試算と最大限に活用できる仕組みづくり	▶管理会計の確立（社福を踏まえた会計へ） ▷辻・本郷の連携・更新 ▶予算主義の実現 ▷施設別会計の元資料づくり	▷辻・本郷の連携推進	▷辻・本郷の連携推進	▷辻・本郷の連携推進	▷定着へ（調整）	管理会計が確立している 予算主義の運営ができている			事業推進	①部門別会計の確立 ②補正予算の運用 ③執行管理	部門別の会計を確立するとともに、四半期に一度の予算編成を適正化し執行管理を運用する	①部門別会計の確立 ②理事会での予算提示 4回／年 ③執行管理として月次レポート実施						
			5		顧問招聘による運営の高度化	運営、安全、会計、人材開発、組織開発において専門的人材を招聘し高度化する	▶運営管理（会計、労務、税務他の運営管理） ▷会計、労務、税務他（BPOの導入とDX化を促進する） 財・会：辻・本郷の連携・修正 労 務：▷辻・本郷の連携準備・調整 税 務：辻・本郷の連携・修正 ▷辻・本郷の連携運用 ▶安全管理（保育の安全管理と探究型保育について迫及する機会の創出） ▷専門的知見の理解深化 ▷適切な保育の促進策 ▶人材開発（法人内職員の研修プログラムを開発、AIなど） ▷DX研修構築、各研修構築 ▷各種研修の推進・更新 ▷各種研修の推進・更新 ▶組織開発（グループ組織の構築と業務分掌の整理） ▷組織の改編、業務整理 ▷組織・体制の更新 ▷組織・体制の更新	▷辻・本郷の連携推進 ▷辻・本郷の連携推進 ▷辻・本郷の連携推進	▷辻・本郷の連携推進 ▷辻・本郷の連携推進 ▷辻・本郷の連携推進	▷定着 ▷辻・本郷の連携推進 ▷定着	それぞれの専門的知見について、管理職が深く理解している状況になる			事業推進	※2	※2	※2	①研修実施 ②月次報告シートの作成 ③マニュアル等の反映件数	専門的知見から派生する研修を実施すること。及び専門的知見に関する月次レポートを取り纏める	①研修実施数 4回／年 ②月次報告シート提出 12回／年 ③マニュアル等反映件数 4件／年				
			6	グループとしての事務局危機管理体制構築	持続可能な施設運営を強化する	施設安全に係る計画をつくる	▶中長期修繕に係る計画づくり ▶①健診受診・予算化 ▶計画案の策定	▶②健診受診・予算化 ▶計画の更新・運用	▶③健診受診・予算化 ▶計画の更新・運用	▶計画の更新・運用	中長期修繕計画が立てられ、それを元に修繕等が実施されている状況になる			事業推進	計画策定と予算書反映、実行	学園全体の中長期修繕計画の策定とそれを予算書に反映させ、実行にうつす。	①中期修繕計画の確立 ②予算化 ③実行							

● 法人事務局／D. 事業を「自グループの生き残りの為」ではなく、業界発展のため「なくてはならない必要とされる法人」としてのソーシャルアクション」を軸に

			7	なくてはならない法人への進化	多機能化する	少子化の中で、施設の利用面積が減少することから、その空きスペースを利用したの多機能化を進める。 目的外利用を脱し、地域に浸透する機能を模索し、実現する	▶児童発達支援事業 みんなるG内増設、展開 ▷企画立案 ▷みんなる・つながり設置検討 ▷訪問支援の実現、定員再 ▶放課後ディサービスへの展開 ▷設置検討	▷みんなる・別施設検討 ▷相談支援の実現	▷みんなる・別施設検討 ▶定着	▶定着 ▶定着	▶定着 ▶定着	▶定着 ▶定着	地域になくなくてはならない存在（なくなると困る存在）になる			事業推進	多機能化の件数	障害者サービス及びコミュニケーションサービスにおいて多機能化された施設等に対する施設数などの件数を指標とする	件数 4件						
			8		それぞれの施設が地域の中の居場所をつくり、脱施設を図る	正和行学グループの食育活動を活用して、地域との連携に発展させ、地域に欠かせない存在になる。	▶地域の食育活動 ▷こども食堂継続検討	▷こども食堂＋食育	▶定着	▷新企画案					事業推進										
			9		正和行学グループにおける地域貢献活動を通じて、地域との連携に発展させ、地域に欠かせない存在になる。	▶冒険あそび場の活動 ▷運営サポート ▶理念に触れるきっかけの創出→いきいきプログラム（自然体験のプログラムなど） ▷コンセプト設計検討	▶定着 ▷設置 ▶施設開放や遊び企画（目的外利用など） ▷コンセプト修正検討	▶定着 ▶精査・定着	▶定着 ▶定着	▶定着 ▶定着				事業推進											

● 法人事務局／E. 全国的・国際的なアライアンスの構築で、保育・教育の分野を新たな領域へいざなう先導役として、コンパスを操る。

				10	事業開発（グループ内法人やアライアンスを軸としたもの）	アライアンス型の事業開発を通じてグループの機能と役割を進化させる。	グループ内外の法人、全国的な団体、行政、民間企業等との共創や公民連携を推進し、保育施設の枠を超えて社会に広がる新たな事業と価値を創出する。	▶G内の活動計画立案 ▷あたほいの展開 ▷地域団体・法人の展開	▷地域団体・法人の飛躍 ▶定着	▶G内外法人及び地域団体連携 ▷あたほいの展開 ▷地域団体・法人の展開 ▷NPO…緑地管理、講座開催／有償ボランティア制度展開…シニア活躍 ▷子会社計画 ▷有償ボランティア制度展開 ▷有償ボランティア制度展開	▷高齢者の活躍の場を創出 ▶定着	グループ内法人や地域団体と各保育施設が連携することで地域になくはない存在（なくなると困る存在）になる			SI推進								事業開発 他団体連携とのつながりづくり 多職種連携のつながりづくり
--	--	--	--	----	-----------------------------	-----------------------------------	---	---------------------------------------	--------------------	--	---------------------	--	--	--	------	--	--	--	--	--	--	--	---

